

ふりがな 氏 名	いとう みつこ 伊藤 充子	職 名	教授
取得学位		学会での受賞歴	
主な担当科目	音楽演習、保育内容の理解と方法(音楽表現) I、幼児と表現		
所属学会	日本音楽学会、日本音楽教育学会、全日本音楽教育研究会、日本音楽表現学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
4 年幼保「音楽演習」の総括としての『おためしライブ』 の実践	平成30年度	4 年幼保専攻「音楽演習」において、前期は就職試験対策の一環として、後期は保育現場を想定し、公開の場で演奏し、評価を受けることを目的として、授業時間外に『おためしライブ』を行なった。これは、昼休みを利用して、公開で行い、「音楽演習」履修者全員が、前期・後期必ず 1 回ずつ行なう。前期は任意の課題の歌唱指導を行い、後期は任意の曲の弾き歌いとした。その場で聴いている学生および教員がチェック項目表にて評価を行い、演奏者は、その日の演奏終了後直ちに各自でアドバイス・評価を集計する。演奏終了 2 週間以内に、それらに対する改善点について記述したものを提出させた。人前で弾く機会を 1 回でも多く経験すること、そして相互評価を行なうことにより、学生自身の学習課題も見つけることができ、現場での即実践力がつくと思われる。
4 年幼保「音楽演習」の総括としての『おためしライブ』 の実践	平成31年度 令和元年度	4 年幼保専攻「音楽演習」において、前期は就職試験対策の一環として、後期は保育現場を想定し、公開の場で演奏し、評価を受けることを目的として、授業時間外に『おためしライブ』を行なった。これは、昼休みを利用して、公開で行い、「音楽演習」履修者全員が、前期・後期必ず 1 回ずつ行なう。前期は任意の課題の歌唱指導を行い、後期は任意の曲の弾き歌いとした。その場で聴いている学生および教員がチェック項目表にて評価を行い、演奏者は、その日の演奏終了後直ちに各自でアドバイス・評価を集計する。演奏終了 2 週間以内に、それらに対する改善点について記述したものを提出させた。人前で弾く機会を 1 回でも多く経験すること、そして相互評価を行なうことにより、学生自身の学習課題も見つけることができ、現場での即実践力がつくと思われる。
4 年幼保「音楽演習」の総括としての『おためしライブ』 の実践	令和 2 年度	4 年幼児保育学専攻「音楽演習」において、前期は就職試験対策の一環として、演奏し、評価を受けることを目的とし、授業時間内に『おためしライブ』を行なった。これは、「音楽演習」履修者全員が、前期・後期必ず 1 回ずつ行なう。前期は任意の課題の歌唱指導を行い、後期は、初めての曲を子どもたちが歌うという想定のもと、任意の曲での歌唱指導とした。2 回とも、その場で聴いている学生および教員がチェック項目表にて評価を行い、授業担当者はその日の演奏終了後一人一人にアドバイスを行った。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
4 年幼保「音楽演習」の総括としての『おためしライブ』の 実践	令和3年度	<p>その後、各自でアドバイス・評価を集計し、演奏終了 2 週間以内に、それらに対する改善点・自分が工夫したことについて記述したものを提出させた。人前で弾く機会を 1 回でも多く経験すること、そして相互評価を行なうことにより、学生自身の学習課題も見つけることができ、現場での即実践力がつくと思われる。</p> <p>4 年幼児保育学専攻「音楽演習」において、前期は就職試験対策の一環として、演奏し、評価を受けることを目的とし、授業時間内に『おためしライブ』を行なった。これは「音楽演習」履修者全員が、必ず 2 回ずつ行なう。任意の課題の歌唱指導とし、その場で聴いている学生および教員がチェック項目表にて評価を行い、授業担当者はその日の演奏終了後一人一人にアドバイスをを行った。その後、各自でアドバイス・評価を集計し、演奏終了 2 週間以内に、それらに対する改善点・自分が工夫したことについて記述したものを提出させた。保育現場を想定し楽曲に即した表現を考え、指導法に活かす経験をすること、そして相互評価を行なうことにより、学生自身の学習課題も見つけることができ、現場での即実践力がつくと思われる。</p>
4 年幼保「音楽演習」の総括としての『おためしライブ』の 実践	令和4年度	<p>4 年幼児保育学専攻「音楽演習」において、前期は就職試験対策の一環として、演奏し、評価を受けることを目的とし、授業時間内に『おためしライブ』を行なった。これは「音楽演習」履修者全員が、必ず 2 回ずつ行なう。任意の課題の歌唱指導とし、その場で聴いている学生および教員がチェック項目表にて評価を行い、授業担当者はその日の演奏終了後一人一人にアドバイスをを行った。その後、各自でアドバイス・評価を集計し、演奏終了 2 週間以内に、それらに対する改善点・自分が工夫したことについて記述したものを提出させた。保育現場を想定し楽曲に即した表現を考え、指導法に活かす経験をすること、そして相互評価を行なうことにより、学生自身の学習課題も見つけることができ、現場での即実践力がつくと思われる。</p>

◆ 研究業績

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行 発表 年月(日)	発行所/誌名・巻号/学 会・展覧会・演奏会の名 称(会場名)	備考
論文	幼児の表現につながる音楽指導 法について(その2)	単	平成31年 3月	名古屋女子大学紀要第 65号 人文社会編	p. 349-357
	教員養成におけるピアノ教材の1 つとして(ソナチネ)	単	令和3年 1月	名古屋女子大学文学部 児童教育学科編『児童教 育論集』第4号三恵社	p.7-14
演奏会	モーツァルト ピアノ四重奏曲 第2番 K. 493 変ホ長調	単	平成30年 9月17日	ハイドンフィルハーモニ ー《共感創造》 光と風の道シリーズ No.80 Op.458 (コンサートホール Le Mani)	フォルテピアノ独奏 <u>伊藤充子</u> 廣瀬太一、大沢郁子、福島有希 子